

## <篠木小学校としての学校評価アンケート結果の考察>

### 設問1 「子どもたちは毎日楽しく学校生活を送っていると思いますか？」

保護者回答では、「非常にそう思う」「そう思う」を合わせると92.1%で、保護者から見て子どもたちは概ね学校生活に適応していると考えられるという結果だった。また、全校児童に実施したアンケートでも、「学校生活は楽しいですか」の問いに、「とても楽しい」「楽しい」と回答している児童が91.6%であったことについて、大変うれしく感じている。

今年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に引き下がり、基本的な感染対策を取りながら、修学旅行・野外学習・校外学習や運動会などの活動を行ってきた。また、学校生活で軽微なトラブルはあるものの、一つ一つの指導や問題解決に丁寧に対応することに心がけ、各学級、学年での指導・話し合いに取り組んできた。生徒指導部会やいじめ不登校対策委員会などで実態や問題を教職員で共有したり、さらに話し合いが必要な事案については緊急でケース会議を開き、解決の方法や支援の在り方などについて話し合ったりしてきた。今後も児童が充実した学校生活を送ることができるように取り組んでいきたい。

### 設問2 「子どもにとってわかりやすく楽しい授業がなされていると思いますか？」

保護者回答では、「非常にそう思う」「そう思う」を合わせると89.7%、児童へのアンケート「授業はわかりやすいですか」には、89.7%の児童が「とてもわかりやすい」「わかりやすい」と答えている。一方、「あまりよくわからない」「わからない」と答えた児童は1割を超えており、全児童に確実に学力を付けられているかについては課題を感じるものであった。

コロナの5類引き下げ以降、これまで制限されていた児童同士の相互活動や活動内容も児童の学びの保障、心身への影響の観点から、市内・校内の感染状況を見ながら進めてきた。その一方、全学年に導入されている一人一台端末を効果的に利用した授業について教員間で研修や情報共有を重ね、その充実を図っている。また、今年度も昨年度に引き続き、全教師が互いの授業を公開し合い、指導法の研究を行った。今後もわかりやすく楽しい授業作りへの努力を一層重ねていきたいと考えている。

### 設問3 「教師は子どもたちを理解して指導していると思いますか？」

保護者の「非常にそう思う」「そう思う」は合わせて86.6%で9割に届かないものの、児童への「先生はあなたのことを分かってくれていますか」に対する回答は、「よく分かってくれている」「分かってくれている」を合わせ93.5%と、児童からは一定程度は認められていると感じている。

今年度も引き続き、児童が困っていることや嫌がらせと感じることについて、敏感に反応することとし、「いじめ事案」として、いじめ不登校対策委員会や生徒指導部会で取り上げ、いじめ解消まで丁寧に対応し、見守ることを学校全体で行ってきた。また、教育相談週間を長く設け、児童一人一人と話す時間を十分に作り、児童理解に努めた。今後も児童の様子に目を配り、児童の声にもよく耳を傾け、その子の内面をしっかりとらえた指導を心がけていきたい。

#### 設問4 「学校は子どもたちの健康や安全に十分配慮していると思いますか？」

保護者の「非常にそう思う」「そう思う」は合わせて90.4%であった。教師への同じ質問の回答も97%と高い数値であった。教師が日々児童の健康安全を第一に考え教育活動を行っていることを、保護者にも理解していただけているのではないかととらえている。

AED研修や食物アレルギー対応委員会、嘔吐物処理講習、不審者対応訓練を行い、間違いなく正確に対応できるよう全職員で研修・研鑽に努めている。また、熱中症予防にも気を配り、熱中症指数のチェックや、こまめな休憩・水分補給なども教師間で声を掛け合い行ってきた。今年度も校外での道路工事が多く、工事箇所に関係する通学団にはその都度注意喚起を行った。今後も、児童の学校生活の状況にあわせ、適切な指導を心がけていきたい。

#### 設問5 「学校は、開かれた学校づくりのため、家庭や地域に適切に対応していると思いますか？」

保護者の「非常にそう思う」「そう思う」の合計は91%であり、昨年度より5ポイント近く上昇した。昨年度の同アンケートで、「コロナ禍という理由で、土曜参観などの行事が中止・縮小されたままになっている。」「他の市町では行っている。このままでは学校と家庭との関係性が薄いまま。」などのご意見をいただいた。コロナ禍前の形にすぐに戻すことは難しかったが、その時の感染状況を見ながら、授業参観等の学校行事を実施した。また、PTAでもこれまで実施できなかった保護者、地域の方に参加していただく事業を積極的に企画運営してきた。このような取組がアンケート結果に表れていると考える。この結果に満足せず、来年度以降も開かれた学校づくりに取り組んでいきたい。

#### 設問6 「今年度の教育活動について」

今年度、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが5類に引き下げられたことを受け、これまで制限のあった児童同士のグループ活動や広く保護者や地域の方々に来校いただく学校行事を求める声が多く寄せられた。コロナ禍にあってもそうであったが、学校としては国や市の示すガイドラインと市内・校内の感染状況を勘案し、児童の安心・安全を最優先に実施の判断をしてきた。今後はコロナ禍で培ったICTの効果的な活用を中心とした、効率よく深い学びをさらに推し進めつつ他者との触れ合いなど体験的な学びの充実も大切にしていきたい。

教職員の児童に対する指導についても多くのご意見をいただいた。昨今、不登校や性の多様性など、さまざまな悩みを抱える児童がいる。それらの児童に対し、教職員間で情報共有を密に行い、スクールカウンセラーや心の教室相談員、関係諸機関とも連携しより充実した支援体制を整えることが重要であると考えている。来年度以降も、チーム学校として児童を取りまく諸課題に向き合っていきたい。

また、学校施設の老朽化を危惧する声も少なくない。本校は、来年度より大規模なリニューアル工事を予定しており、工事終了後には学校施設も整い、学習環境も充実したものになると考えている。

## <学校評議員のご意見>

教育活動のアンケート結果および本校の考察と、1年間の学校評議員会をまとめ、評議員の皆様からお寄せいただいたご意見です。

- ・保護者と児童とで、アンケート結果に差がある。学校での取り組みが十分に保護者に伝わっていないことが要因ではないか。
- ・校地の高低差を利用した遊具に対し危惧する意見が多く見られる。児童の安全という視点から、学校として今後どのように扱っていくのか。安全のために遊具自体を無くすのか、残した上で安全に使用するための遊び方の指導を徹底するのか、学校としての方針を示す必要がある。
- ・今年度は実施することができなかった土曜参観については、来年度、実施できるとよいと考える。学校行事が平日のみとなると、どうしても父親の参加が難しくなることも。
- ・保健指導部が長期休業明けに行っている「篠木っ子すこやかカード」の取組は、生活のリズムを整え、自らの生活について見つめ直す機会の一助となっており大変有意義な取組だと感じる。
- ・自由記述にもあるように、感染症流行の兆しが見られるときには、Home&Schoolで保護者に知らせることで、家庭での意識の向上に繋がり感染症予防に有益ではないか。
- ・児童が五感を働かせ体験する授業は心に残ると考える。ぜひ来年度も、積極的にそのような授業を推進してほしい。